

# 2024夏ボラ新聞

～笑顔あふれる 新しい自分との出会い～

— 発 行 者 —  
社会福祉法人  
新見市社会福祉協議会

新見市社会福祉協議会では、中高生の皆さんにボランティアの機会を提供し、社会福祉への理解を深めるとともに、様々な出会いの中から新しい発見や「共に生きていく」視点について考える機会として「夏のボランティア体験（夏ボラ）」を毎年実施しています。コロナ禍で中止していた福祉施設でのボランティア活動も、今年度は5年ぶりに再開し、44名の参加者が15カ所の施設においてボランティア活動に取り組みました。

施設分類別活動者数

高齢者施設（11カ所）：32名 / 障がい者・児施設（4ヶ所）：14名

\* 2施設で活動した参加者を含めています

## 7/6 事前研修会・活動調整会議

事前研修会では、ボランティアに関する社会福祉協議会での活動紹介と、ボランティアの意義、夏ボラの目的や心構え、活動のポイントなどについてお話ししました。そして、参加者それぞれが活動に向けた目標を立て、活動への思いを強くする機会となりました。

その後、活動調整会議では、ボランティア先の施設の方々と、日程調整や活動内容、留意事項の確認等を行いました。



### 私の目標 ～夏ボラに向けて～

- ・夏ボラを通して、福祉やボランティアの大切さについて学びたい。
- ・相手の気持ちを考え、自分から積極的に行動したい。
- ・いろいろな人がいる中で、その人に合った接し方や行動をどうすればよいか、関わりを大切にしながら学びたい。
- ・"障がいのある方" "話しにくい"と先入観を持たず接したい。
- ・自分から積極的にコミュニケーションを取り、利用者さんの特技や好きなことについて聞いてみたい。

## 活動の様子

### 高齢者施設



しっかりと目線を合わせて会話していますね！

### 障がい者・児施設



寄り添う後ろ姿が微笑ましいですね！

みなさん、それぞれの目標に向かい、利用者の方としっかり向き合い活動できました。笑顔がステキです！！



## 8/24 事後研修会

事後研修会では、それぞれが施設の利用者の方や職員の方との関わりから感じた学びや気づき、体験の前後で変わったことなど、ワークシートを活用しながら振り返り、発表を通して成果の共有をしました。

ボランティア活動を体験するだけで終わらず、しっかりと振り返ることにより有意義な体験にすることができました。



### 感想 ～活動を終えて～

高齢者との関わり方がよく理解できた。最初は何をすればいいかわからず、高齢者の方と仲良くなれるか不安だったが、意識的にたくさん話をしたり、レクリエーションなどを通して仲良くなれた。手を振ってもらったり、リハビリに行くときに「頑張ってくる」などの声があり嬉しかった。

3日目になると自分からできることも増えて嬉しかった。職員の方にサポートしてもらったが、利用者の方はいつ、どんな補助が必要かなどの判断が難しかった。人と接する仕事は相手の気持ちを考えたり、体力も必要だけど、今回の体験を通して人と接する仕事に就いてたくさんの経験をしたいと思った。

こどもには難しい言葉を使わず、優しい口調で話しかけるなどの注意すべき点が分かり、子どもとの関わり方が理解できた。1日目には難しかったことが2日目、3日目を通して、今では自分から積極的に話しかけることが出来るようになった。この3日間での成長を実感することができた。

何でも手伝うのではなく、できることは見守ることが分かった。それぞれに合った支援があると知った。ボランティアは誰かに指示されてするものではないけど今回ここで活動できて良かった。

食事の時は配膳を間違えないように職員間で確認したり、それぞれ食事方法が違うことが分かった。話し方もゆっくり大きな声がよいと感じた。お風呂の種類も利用者の方の状態に合わせて種類があると知った。

介護の仕事は大変そうだったが、やりがいがあり、コミュニケーションをとることは楽しかった。介護福祉士という職種に興味が出てきた。

夏ボラを通して、相手の目を見て話す大切さ、一人一人に合った対応、常に笑顔でいることの大切さなど、日頃の生活にも通じることがたくさん学べた。

## ～“夏ボラ”をひと言で表すと～

たくさんの思いが込められていますね！

介護施設のみなさんと過ごした  
最高の夏

自分を変えられる体験

先入観や考え方が変わる体験

緊張など不要

自分の成長につながる最高の体験

新しい発見ができるボランティア活動

福祉について考える機会となる体験

自分で考えて動くことで、  
より多くの発見を得られる体験

## ～施設の方からのコメント～

利用者さんが椅子に座る時に後ろから支えてあげていたことに感心した。利用者さんの動きをよく見ていたと思う。また、相手の立場に立って気持ちに寄り添うことの大切さも感じてもらえたのではないだろうか。

福祉は一人でもできることを安心してできるように、できないことは一緒にできるように、そんな仕事だと思う。今回のボランティア活動を通して、みなさんに伝わっているとうれしい。

日を重ね、お子さんに関わっていくことに対して、積極的になっていく姿が見られた。お子さんと一緒に工作体験を行う際に、他のボランティアの方と役割を相談し、どう伝えるかや力加減の難しい所は一緒に手伝うなど、工夫をされていた。



### 編集後記

5年ぶりとなる福祉施設での体験活動に44名の方が参加され、また高齢・障がい分野の19施設よりご協力をいただくことができました。大変ありがとうございました。施設を訪問すると、緊張の中にも、優しい笑顔で話しかけたり、そっと手を添える参加者の姿が見られ、とても頼もしく、微笑ましく感じました。事後研修会においても、短期間のボランティア活動にも関わらず、多くの気づきや学びを得て、しっかりと自分の言葉で表現し、共有することができました。この夏ボラをきっかけとして、これからも自分自身が成長し、心豊になるために自分に合ったボランティアを見つけてチャレンジしてほしいと思います。

### 〈受入協力施設〉

- ・特別養護老人ホーム ゆずり葉
- ・特別養護老人ホーム 唐松荘
- ・特別養護老人ホーム おおさ苑
- ・グループホーム 花みずき
- ・小規模多機能ホーム ウェルネスたかお
- ・ケアポート生き生き館新見
- ・介護老人保健施設 くらかみ
- ・介護老人保健施設 すずらん
- ・デイサービスセンター オレンジ
- ・哲西荘デイサービスセンター
- ・新見市社協中央デイサービスセンター
- ・障害者支援施設 大佐荘
- ・共同作業所 つつじ憩いの家
- ・日中一時支援 かぜのおと
- ・もりっこ
- ・小規模多機能ホーム にいざとさくらの丘
- ・健康の森学園
- ・福祉ワークセンター阿新
- ・新見市社協神郷デイサービスセンター

ご協力いただき、ありがとうございました!!